



## すべての会員がもっと積極的に医師会活動に参加できないか 医師会将来ビジョン委員会委員の経験を通して

北区支部 荒木 啓伸

平成23年1月から約1年半にわたって、日本医師会の医師会将来ビジョン委員会に委員として参加させていただいた。その中で、どのようにすれば医師会員がより積極的に医師会活動に参加できるようになるか、という問題については、議論も多く重ね、自分自身も考えるところが多かった。今回、「オピニオン」の執筆機会を与えられたので、この問題について、私なりの考えを書かせていただこうと思う。

### 医師会活動を行うことのメリットとは？

医師会活動への参加に消極的な医師が異口同音に唱えることが、医師会活動を行うことのメリットはあるのか、である。

言うまでもないことだが、医師会は国民が安心して医療を受けられる活動だけではなく、我々医師が安心して医療を行えるよう日々活動を続けている。最近では、外来受診時の定額負担に関して、日本医師会を中心に反対運動を展開し、その導入を阻止した。また、社会保障改革に関しては、国民皆保険制度が揺るがされることがないように注視を続けているし、世界に冠たる日本の医療を守るべく、特定看護師問題やTPP等々に対しても、絶えず発言を行っている。また、日常診療に直結することでは、札幌市のいわゆる「とくとく健診」や後期高齢者健診制度の運用、産業医活動、学校医活動など、数多くの事業の維持が医師会活動を通じて可能になっている。我々医師にとって、これらの医師会の活動によって、安心して日々の医療を行えることこそが、医師会入会の最大かつ最も重要な「メリット」なのではないだろうか。すなわち、医師としてアイデンティティーを持った仕事ができることの基礎が医師会であると私は

考えている。

では、このような「メリット」を医師会員に知ってもらうにはどうしたらいいのか。私なりの考えを述べてみようと思う。

### 早期の動機付けが重要

医師会員に広く医師会活動を知ってもらい、積極的に参加してもらうには、まず早期の動機付け、すなわち医学生もしくは研修医の段階から医師会活動に関心をもってもらうことが重要であると思う。

実際、すでに北海道医師会では医学生との懇談会を毎年開催し、今年は地域医療および子育て支援を中心に医学生の声を幅広く聞いた。また、日本医師会は、医学生を対象にしたフリーペーパー「ドクターゼ」を刊行し、医療保険の仕組み、臨床研修制度等の医政問題をはじめ、医師会の医師支援活動等を幅広く紹介している。今後は、これらの活動をさらに拡大し、とにかく早期に医師会活動への関心を持ってもらうことが重要であると思う。

動機付けの方法はどのような形でもいいと思うし、チャンネルは多いほうがいいだろう。医学部で医師会枠の講義を行っている医師会もあると聞いている。また、臨床実習の開始に際し「白衣授与式」を行い、日医のロゴ入りの白衣を授与するのも一つの方法だろう。また、東医体で「日本医師会長杯」を新設し、医師会に親しみを持ってもらうのもいいのではないかと

### 継続的な活動の必要性

第二に、関心を持ってもらった医師会活動を継続して行い、医師会活動の基本や医政の基本的な事項を継続的に確認する場が必要であると

思う。

医師国家試験に合格し、臨床研修が始まると、日々の業務や研究に追われ、医師会に対する興味関心が薄れてしまい、医師会活動から遠ざかってしまっているのが現状だと思う。せっかく医師会に親しみや関心を持ってもらったのであれば、研修医、後期研修医（ここまでは、大学医師会に加入していることが多いと思われる）、勤務医、開業医（この段階では郡市区医師会の会員となっている）と、継続的な活動への参加を促すことが重要ではないだろうか。

では、多忙な医師が、研修医のうちから継続的に医師会活動に関心を持ち、医師会活動に参加してもらうことは可能なのだろうか。私は可能だと思っている。大学医師会に所属している医師を含めて、若い医師は、各学会の地方会に積極的に参加し、臨床の知識や技能のブラッシュアップを行っている。医師会もこれと同じように、2～3ヶ月に一度の会を開き、自分たち医師が安心して医療を行うための基本的事項、たとえば、「混合診療完全解禁」や「医療分野を含めたTPPへの参加」等々の諸問題への問題意識を共有していけばいいのではないか。さらに知識を深めたいと思えば医師会員は医師会のホームページ等を訪れればよいし、研修医でも日医が運用している「臨床研修医支援ネットワーク」を使えば、日医の情報にアクセスすることが可能になっている。これらの活動への継続的な参加を通して、会員は医師会活動や医政問題への共通認識を持つことができるようになり、細部では意見の相違こそあれ医師として基本的な部分では一丸となった行動をとることが可能になると思う。

さらに、このような継続的活動が定着していけば、医師会に、若手を中心とした会を組織することも夢ではないと思う。「卒後5年目までの

会」「40代までの会」「青年医師の会」など組織し、医師会活動を充実させていくことができれば最高だと思う。さらに、これらの組織を日本医師会レベルにも拡大することも可能であろう。日医本部に集合が困難であれば、インターネットやテレビを活用した会議も可能であるのだから。

郡市区医師会は大学医師会とも協力し、研修医から開業医に至るまで、一貫して継続した活動ができる環境をさらに整備していただけると幸甚に思う。

### 私が考える医師会活動の近未来像

これまで、医師会活動への早期の動機付けおよび継続的な活動の必要性を、誠に僭越ながら私なりに本当に自由に述べさせていただいた。私の勉強不足から、荒唐無稽の部分も多かったかもしれない。しかし、今後我々医師は、一丸となって世界に冠たる医療制度を守っていかなければならないことは事実であり、そのためには今まで述べたような活動の一つ一つ実現していくことが必要であると思う。

そうすれば、国民が安心して医療を受けられ、我々医師が安心して医療を行える基盤は医師会にあることを自ずと感じるようになり、医師会は内部から、そして若手を含めて活性化していくのではないだろうか。継続的に医師会活動の必要性を実感した会員が増えていけば、すべての医師会員が積極的に医師会活動に参加できるようになっていくと思う。そのような地道な積み重ねにより、近未来には、今以上に活発で揺るぎのない医師会になっていることを期待してやまないし、私自身もそのような医師会の中で活動することができればうれしく思う。

（荒木病院）